

神奈川県県土整備局 ICT活用工事（土工（小規模土工））積算要領

1. 適用範囲

本資料は、1 箇所当りの施工土量が100m³以下、又は100m³以上で現場が狭隘な場合の掘削及び、バックホウを用いて行う平均施工幅 2 m未満の土砂の掘削等である床掘りに適用する。

また、適用土質は、土砂（砂質土及び砂、粘性土、レキ質土）とする。

なお、「1 箇所当り」とは目的物（構造物・掘削等）1 箇所当りのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を 1 箇所とする。

2. 機械経費

2-1 機械経費

ICT活用工事（土工（小規模土工））の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。

なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、土木工事標準積算基準書の「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。

機械名	規格	機械経費	摘要
バックホウ （クローラ型）	標準型・排出ガス対策型 （第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	損料にて計上	ICT建設機械経費加算額は別途計上
小型バックホウ （クローラ型）	標準型・排出ガス対策型 （第2次基準値） 山積0.13m ³ （平積0.1m ³ ）	損料にて計上	ICT建設機械経費加算額は別途計上
バックホウ （クローラ型）	後方超小旋回型・排出ガス対策型 （第2次基準値） 山積0.28m ³ （平積0.2m ³ ）	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上
バックホウ （クローラ型）	後方超小旋回型・排出ガス対策型 （第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上

2-2 ICT建設機械経費加算額

ICT建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費のうち損料にて計上する ICT 建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

対象建設機械：バックホウ

損料加算額：5,470円／日

2-3 その他

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

2-3-1 システム初期費

ICT建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT建設機械精度確認等、ICT建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用は、ICT建設機械経費損料加算額に含んでいる。

3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。また、3次元起工測量を実施した場合は、3次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。

費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。

また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。

なお、「3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。

4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用

原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。

5. 積算方法

受注者からの提案・協議によりICT活用工事を実施した場合は、実績数量に基づき積算するものとする。

【参考】

1. 各作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表1. 1 機種を選定

作業の種類	作業の内容	機械名	規格	摘要
掘削積込	標準	バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	
	上記以外 (注)	小型バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.13m ³ (平積0.1m ³)	
床掘り	施工幅1m 未満	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・排出ガス 対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	
床掘り	施工幅1m 以上2m未満	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・排出ガス 対策型(第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	

(注) 作業の内容における上記以外とは、構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な箇所及び1箇所当りの施工土量が50m³以下の箇所とする

2. 掘削積込作業及び積込作業

バックホウによる掘削積込及び積込作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表2. 1 日当り施工量 (1日当り)

作業の種類	名称	規格	単位	地山の掘削積込	ルーズな状態の積込み
標準	バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	m ³	40	45
上記以外	バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.13m ³ (平積0.1m ³)	〃	16	23

3. 床掘作業

3-1 施工幅1m未満

3-1-1 日当り施工量

バックホウによる床掘作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表3. 1 日当り施工量

(1日当り)

名称	規格	単位	数量
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	m ³	34

3-1-2 補助労務

床掘作業の補助労務は、作業の内容にかかわらず次表を標準とする。

表3. 2 床掘補助労務

(10m³当り)

名称	単位	数量	摘 要
普通作業員	人	0.3	基面整正及び浮き石除去含む

3-2 施工幅1m以上2m未満

3-2-1 日当り施工量

バックホウによる床掘り(作業土工)の日当り施工量は、次表を標準とする。

表3. 3 日当り施工量

(1日当り)

作業の内容	名 称	土質名	規 格	単位	数量	
					障害 なし	障害 あり
標準 (平均施工幅 1m 以上 2m 未満)	バックホウ (クローラ型) 運転	レキ質土・砂・ 砂質土・粘性土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	m ³	163	109
		岩塊・玉石	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積 0.45m ³ (平積 0.35m ³)	m ³	119	76

(注) 1. 現場条件の内容

①床掘り(作業土工)

障害なし：(1) 構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオープン掘削の場合。

(2) 構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されない矢板のみの土留・仮締切工掘削の場合。

障害あり：(1) 床掘作業において障害物等により施工条件に制限がある場合
(例えば作業障害が多い場合)。

(2) 土留・仮締切工の中に、切梁・腹起し又は基礎杭等の障害物がある場合。

②掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削作業を行う場合は障害ありを適用する。

③基面整正(床付面の整正作業)が必要な場合は、基面整正100m²当り普通作業員2人を別途計上する。

2. 上表にクレーン作業は含まない。

3-2-2 補助労務

構造物等(共同溝を除く)の施工に当り土留方式により床掘作業を行う場合、土留材等に付着する土(土べら)及び腹起し・切梁・火打梁等により機械掘削出来ない箇所、小規模な湧水処理等の作業のため、普通作業員を計上する。

表3. 4 床掘補助労務

(100m³当り)

作業の種類	土留方式	名称	単位	数量
床掘り (作業土工)	自立式	普通作業員	人	0.3
	切梁腹起し方式	〃	〃	0.9
	グラウンドアンカー方式	〃	〃	0.7

4. 単 価 表

(1) バックホウ掘削積込 10m3 当り単価表

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m3 (平積 0.2m3) 又は 山積 0.13m3 (平積 0.1m3)	日	10/D	表 2.1 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) D : 日当り施工量

(2-1) バックホウ床掘 10m3 当り単価表 (施工幅 1 m未満)

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普通作業員		人		表 3.2
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m3 (平積 0.2m3)	日	10/D	表 3.1 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) D : 日当り施工量

(2-2) バックホウ床掘 100m3 当り単価表 (施工幅 1 m以上 2 m未満)

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普通作業員		人		表 3.4
バックホウ (クローラ型) 運転	排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積 0.45m3 (平積 0.35m3)	日	100/D	表 3.3 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) D : 日当り施工量

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m3 (平積 0.2m3)	機—33	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量 → 37 機械損料数量→ 1.59
〃	標準型・排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.13m3 (平積 0.1m3)	機—33	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量 → 23 機械損料数量→ 1.33
〃	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28m3 (平積 0.2m3)	機—33	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量 → 37 機械損料数量→ 1.59
〃	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積 0.45m3 (平積 0.35m3)	機—33	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量 → 44 機械損料数量→ 1.33